

## 能登半島にて思うこと

世界防災フォーラム事務局長 吉野 賢



### 4月4日、「防災×帽祭」プロジェクトの活動で能登半島珠洲市にお伺いしました。

おのくんプロジェクトの新城さん、武田さんに同行し、岡山の支援団体の方が開催した運動会で、能登半島の子どもたちにプレゼントを届けることが今回の訪問の主な目的です。運動会ではパン食い競争や綱引きなどの競技が4チームに分かれて実施され、子どもたちだけでなく、多くの大人も楽しそうな時間を過ごしていました。さらにボランティアさんがブースを出して炊き出しや生活物資の配布などを行っており、被災された方々も充実した時間を過ごしていたように見えました。

プレゼントの中身は「防災×帽祭」プロジェクトで製作したおのくん人形です。100人を超える帽子デザイナーさんたちを中心とした協力者さんが作ってくださったおのくん用のハットもセットです。子供たちに手渡すと本当に喜んでもらえて、こちら嬉しくなりました。大人も楽しそうでした。自分は何もしていないのにも関わらず思わず涙が出そうになりました。

炊き出しや生活必需品を被災者の方に配布していたチームのリーダーの方に、市内を案内頂きました。震災からすでに3ヶ月も経っていたということにも関わらず、未だに片付けすら終わっていない状況に言葉もありませんでした。復興にはまだまだ時間がかかることを体感するとともに、一日も早い復旧復興を願わずにはいられませんでした。



珠洲市内の状況 2024年4月4日撮影

お手伝いの合間には東日本大震災で被災された武田さんのお話をたくさん聞かせてもらいました。「津波で全てを流され、でもそれ故ゼロからやりなおす覚悟ができた」という話。ご自身も東日本大震災当時とても大変な思いをしたにも関わらず、能登の被害を見て、「倒壊した自宅をいつまでも見なければならぬと、逆にそれは辛いだろうね」と気遣う姿を見て、またしても涙が出そうになりました。

現在、地震に関して言えば日本国内に安全な場所はありません。すべての場所で地震が発生する可能性があります。能登や熊本、東北で起こったことは他人事ではないのです。多くの方に災害に対する備えをして頂き、ご自分の命や財産を守ることができればいいと切に思います。防災に関わることになった者の端くれとして、少しでも能登や東日本のこと、備えの大切さを伝えなければならぬと決意も新たに能登訪問でした。

能登が復興するその日まで、心の底から応援します。

# 100年前の手紙プロジェクト中間報告 —仙台防災未来フォーラム—



3月9日に開催された仙台防災未来フォーラムにて、「100年前の手紙プロジェクト」の中間発表をおこないました。100年前の手紙とは、関東大震災の際に全国の学生によって綴られた、アメリカによる大規模な支援に対するお礼の手紙です。この手紙が現存することを知った私たちは、去年の夏から東北大学の川内先生とともに調査を進めています。

当日の発表では、プロジェクトメンバーである世界防災フォーラム代表理事の小野裕一、副事務局長の小野天椰、東北大学の川内先生のほか、福島県から安積高校新聞部の生徒さんも登壇しました。安積高校さんとはぼうさいこくたい（横浜）で出展した際にOBさんが私たちのブースに立ち寄りいただいたことがきっかけでご縁が生まれました。

安積高校は調査対象の手紙を書いた生徒たちが在籍していた高校で、私たちの調査について安積高校新聞でも取り上げてくださっています。

発表の冒頭では、100年前の手紙が現存していることを知ったきっかけや、初めて手紙が公開された日のことなどプロジェクト始動の背景を防災フォーラムが説明しました。



発表の中盤では川内先生が当時の様子や手紙の内容、過去の学生たちの思いを読み解き、日米両国が抱く両国関係改善への想いに触れながら「防災と平和」というキーワードで話を結びました。

続く安積高校新聞部の生徒さんは、関東から遠く離れた福島県の安積高校でも学校全体で一体となり関東大震災の支援を行っていたことなど、新聞記事作成を通して過去から多くの学びを得たことを会場に共有していました。「過去の教訓を今に生かしてほしい。現在の自然災害や戦争

「もし世界が平和でなかったら、このような不幸に見舞われた時、日本はどうなっていたのでしょうか？世界の平和が私たちの国を救ったのだと言えるかもしれません。」

(水戸高等女学校生徒、100年前の手紙より抜粋)

は、防災の観点から見ても、助け合いの観点から見ても自分事として捉えてほしいと伝えたい」という現在の高校生の言葉に過去の学生たちの思いが重なる印象深い締めくくりでした。

このプロジェクトを通じて、過去現在の学生たちが「防災と平和」に寄せた想いが多くの方に伝わることを願っています。

## 当日のプログラム

- ・100年前の手紙プロジェクトとは
- ・なぜ、手紙はアメリカに届けられたのか？—関東大震災と日米関係—
- ・手紙の教訓をいまに生かす

## セッション登壇者

世界防災フォーラム	小野 天椰
東北大学災害科学国際研究所	川内 淳史
福島県立安積高等学校新聞部	代表 2名

## ご寄付のお願い

世界防災フォーラムの活動は皆さまからのご寄付によって支えられています。

いただいたご支援は世界防災フォーラム開催などの事業や日々の私たちの運営費に活用されます。



ご寄付はこちらから